

平成25年度学校経営方針

新宿区立四谷中学校
校長 東 孝 夫

【学校の教育目標】

人間尊重の精神を基盤とし、確かな知性と創造性を身につけ、心豊かで実践力のあるたくましい生徒を育成する。

- 勉学に励み新しい文化を創造する人
→ 向上心をもって学び続ける人（自らを高める）
- 気品ある人間性をそなえすすんで社会に貢献する人
→ 自ら考え、判断し、社会に貢献しようと行動する人（人とつながり、人を支える）
- 心身ともに健やかでたくましく生きる力をもつ人
→ 礼儀をわきまえ、思いやりと規範意識のある人（たくましく生きる）

【学校経営方針】

経営スローガン ～ 対話・協働・変革 ～

＜あるべき生徒像＞

- 向上心をもって学び続ける人（自らを高める）
- 自ら考え、判断し社会に貢献しようとする人（人とつながり、人を支える）
- 礼儀をわきまえ、思いやりと規範意識のある人（たくましく生きる）

＜あるべき教師像＞

- 前例踏襲でなく今の生徒にあった教育活動を推し進める教師
- 常に教育者の立場として考え、判断し、実践しながら生徒の成長を促していく教師
- 教育公務員として法令を遵守し、サービスに対して自覚と責任をもつ教師

＜あるべき学校像＞

- 生徒が安心（人権の尊重）し、安全（生命の尊重）に、楽しく（人格の尊重）学ぶことができる学校
- 地域協働学校として、学校・地域・PTAが一体となった、さらなる地域の中の学校

平成25年度の重点目標

<生徒>

- 教育活動すべての礎としての「心の教育」を実践する

<教員>

- 内・外研修を通して教員の「資質向上」を意図的計画的に図る

<学校・地域・PTA>

- 地域協働学校の実践校七年目として、学校運営協議会を中心とし多様な視点からの「学校・地域・PTAが一体」となった質の高い教育活動を提供する

【具体的な取り組み】

I 確かな学力の定着の保障・・・学習指導系

- ① 学習指導要領の教科・領域における「基礎・基本」を的確に捉えた教科指導を行う。
- ② 指導内容の見直しを計画的に実施し、ICT 機器等を活用した「教材開発」を図る。
- ③ 読書活動を推進するとともに、あらゆる教育活動において「言語活動の充実」を図り、思考力、判断力、表現力の育成につなげていく。

★④ 地域・保護者との協働による「放課後学習を充実させ、学習意欲の向上」を図る。

- ⑤ 家庭との連携を図りながら「家庭学習を定着」させる。
- ⑥ 学習指導支援員の活用や、放課後学習、日本語学習支援等の多様な学習形態や学習方法を提供し、「確かな学力の育成」を図る。

II 豊かな人間性、社会性の保障・・・キャリア教育系

★① 心の教育を充実させ、豊かな心を育成するために道徳授業を基盤とし、「道徳的視点に立ったあらゆる教育活動」を推し進める。

- ② 認め合い、支え合い、高めあえる学級・学年づくりを展開し、「質の高い集団」を育成する。
- ③ 自己の適性・選択、判断、決定、責任のサイクルに基づいたキャリアプログラムを開発し「計画的な生き方指導」を展開する。
- ④ 「総合的な学習の時間」の在り方にかえり「四谷学」を再構築する。

★⑤ 学校運営協議会が中心となった多様な視点からの「地域・学校・PTA が一体」となった質の高い教育活動を実践する。

- ⑥ 特別支援学級(新苑学級)と通常学級との交流を積極的に図り、「共存・共生意識」を深める。

III 健康な心身と安心安全な学習環境の保障・・・生活指導系

- ① 事故、事件に関して「迅速・確実そして組織で対応」する。
- ② 生徒の自治能力活動を重視する「学級・学年・生徒会活動を重視」する。
- ③ 部活動を学校教育としての一環とし、教育課程との関連のもと、「人間形成及び健康な心身を育成」する。
- ④ 「いじめ」等の問題は、QU やアンケートを計画的に行うとともに、生徒の変容を常に全教職員で共

有し「早期対応・解決」を図る。

- ⑤ 食に関する計画、保健に関する計画にそって健康にについて関心を高め、「健康づくり」に取り組ませる。
- ⑥ スクールカウンセラー、保健室、職員室との連携を密にすることで「相談活動の充実」を確実に図る。
- ⑦ 「自分の命を自分が守る」をモットーに危機管理マニュアルに基づいた避難訓練等を「計画的に実施」する。
- ⑧ 特別な支援を必要とする生徒の対応について「校内委員会を中心」とし、特別支援教育推進員、巡回相談等の支援チームを活用しながらすすめる。

【教員としての研修及び教育活動の推進】

- ① ミドルリーダーを中心とした校内 OJT やプロジェクト(分掌)主任による「組織の活性化」を継続的に図っていく。
- ★② 校内研修会に基づく授業研究を実施するとともに、外部研修にも積極的に参加し教員の「資質向上」を図る。
- ③ 自己評価、外部評価を活用し、わかる授業・できる授業を実践するために「指導方法の工夫改善」を図る。
- ④ 来校者、電話の応対等、接遇の視点を踏まえた「丁寧な対応」を行う。
- ⑤ 学校だより、学年だより、保健だより、給食だより、ホームページ等様々なメディアを通して日常的な教育活動を正確に伝え、一方通行ではなく「双方向な広報活動」を推進する。

【地域協働学校 ～四谷中学校～】

地域とともに生徒の人間性・社会性を磨き

地域とともに生徒の意欲・能力・可能性を高める

<学校運営協議会の役割>

1 職場体験・職場訪問・生き方学習の地域、外部支援の充実

- ① 100の事業所・支援協力者の獲得
- ② 外部人材による生き方学習支援

2 学校・地域が一体となった安全管理・防災の取り組み

- ① 地域・学校が一体となった安全教育（交通安全・災害安全・火災安全）
- ② 地域防災訓練を学校との協働実践

3 学校評価・学校広報活動の充実と各学習室の運営

- ① 学校・地域・生徒による自己評価及び学校評価の充実
- ② 保護者・地域の外部人材による明確なねらいに基づいた学習支援

4 生徒との協働とより良い学校生活に向けた取り組みの推進

- ① 生徒自ら地域との協働活動に参加し、地域の考え役割を学び、社会の一員としての意識の向上
- ② 地域の中の学校の在り方、教育活動の確認